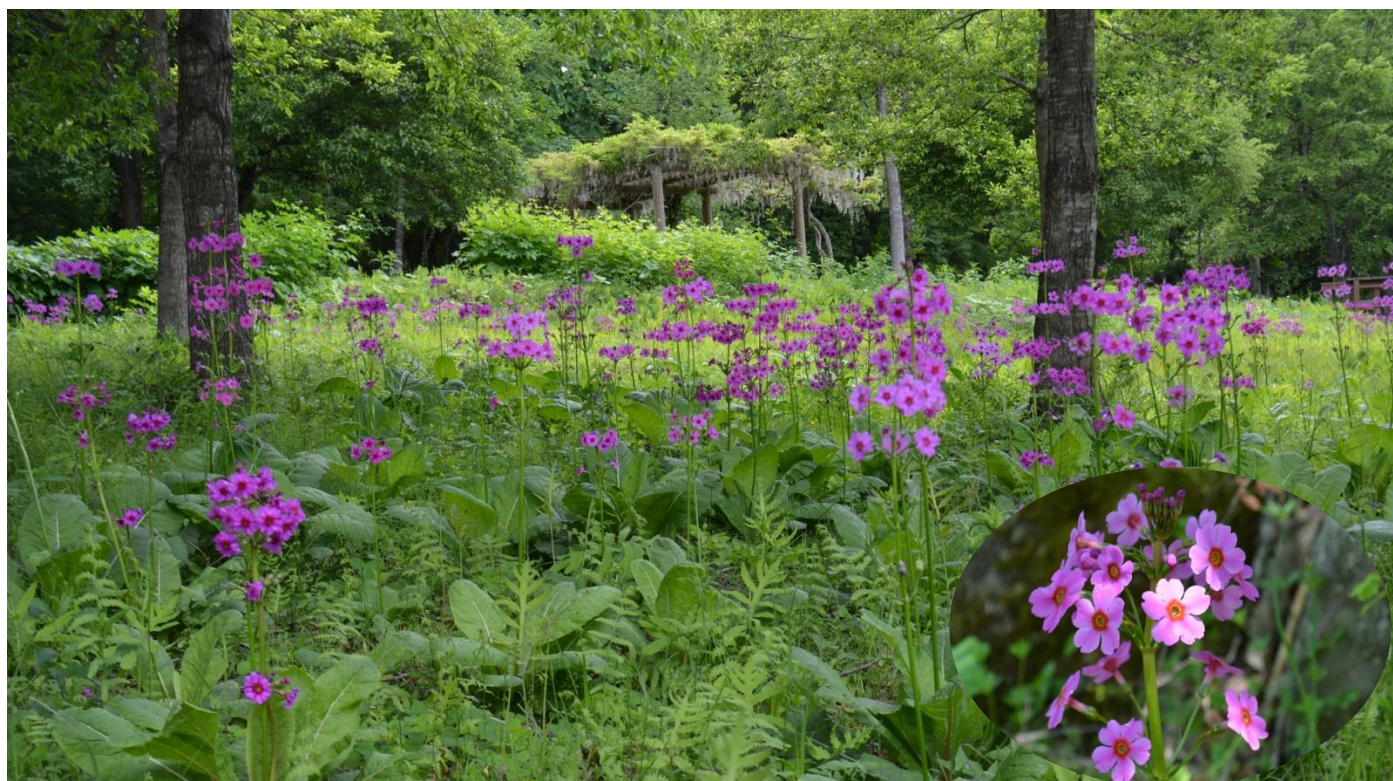


各 位

平成30年5月15日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



「クリンソウの谷」に咲き誇るクリンソウ（前年の5月下旬に撮影）

クリンソウ（サクラソウ科）

山地の湿地などに生える多年草で、長楕円形の大きな葉の表面はしわが多いです。花が開く頃に花茎はぐんと伸び、紅紫色の花を5～7段輪状に多数つけます。日本のサクラソウの仲間では最も背丈が高いようです。クリンソウ（九輪草）は寺院の塔の請花と水煙の間にある九輪に例えて名づけられたようです。

樹木や草花はたくさんの若葉をつけ、野草園は新緑の季節を迎えています。「クリンソウの谷」の北西側にある湿地には淡紅紫色のサクラソウの花が一面咲き始めました。茎上に可愛いハート形の花弁の花をたくさん付けています。近くには同じ仲間のクリンソウも咲き始め、これから谷一面がピンク色の花でいっぱいになります。一方、園内の「マグノリア通り」や「ツツジの丘」では、野生のツツジが咲き誇っています。ヤマツツジやシロヤシオ、サラサドウダンやベニドウダン等、たくさんのツツジがそれぞれの特徴のある花を見せてくれます。

広い野草園は、可憐な野草の花が所々に見られ鳥の鳴き声も聞こえてきます。新緑の樹木や草花の中を家族や仲間と一緒に歩いて、心と体をリフレッシュして下さい。

また、野草園内の自然学習センターでは、第24回写真コンテスト入賞作品展やエビネ展を行いますし、写真撮影教室や健康ウォーキング講座も計画されています。是非ご参加下さい。

5月中旬から6月上旬のイベント日程

◆6月第2月曜まで無休で開園します。

◆【ガイドウォーキング】

○日 時 5／12(土)、13(日)、19(土)、20(日)、26(土)、27(日)、
6／2(土)、3(日)、9(土)、10(日)、17(日)

①10:00～11:00 ②11:00～12:00 ③13:00～14:00 ④14:00～15:00

○場 所 野草園内全域

○内 容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。見どころの花の場所に案内し、その花の説明もしてもらえます。

◆【エビネ展】 5／19(土)～5／27(日) 9:00～16:30

○内 容 色彩豊かなエビネ約80鉢の展示

○場 所 野草園自然学習センター内 ○参加費 無料(入園料別)

◆【エビネ販売】 5／19(土)、20(日)、26(土)、27(日)

○場 所 野草園自然学習センターピロティ

◆【エビネの育て方教室】 5／26(土) 10:00～12:00

○講 師 ガーデン・アベ 阿部悌二郎 氏

○内 容 エビネの鉢植え(実技) ○場 所 野草園自然学習センターピロティ

○対 象 先着15人 ○参加費 1,300円(入園料別)

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【初心者写真撮影教室】 6／1(金) 13:00～15:00

○講 師 山形市写真連盟会長 軽部治悠紀 氏

○内 容 一眼レフカメラの基本的な撮影技法を学び、実際に撮影する。

○場 所 野草園内、自然学習センター ○持ち物 一眼レフカメラ、SDカード

○対 象 一眼レフカメラの初心者 先着10人 ○参加費 100円(入園料別)

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【健康ウォーキング講座】

○日 時 6／2(土) 10:00～11:30

○講 師 市健康づくり運動普及推進協議会

○内 容 自然に癒されながらウォーキングやストレッチの方法を学ぶ。

○対 象 先着20人 ○参加費 無料(入園料別) ○持ち物 飲み物、歩きやすい服装

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【第24回写真コンテスト入賞作品展】・・・6／2(土)～7／1(日)

○内 容 29年度の写真コンテストで入賞した作品を展示。

○場 所 野草園自然学習センター内 ○参加費・・・無料(入園料別)

●●●5月後半に見られる主な花たち●●●●



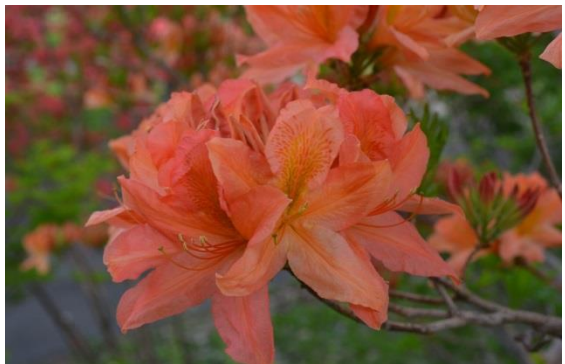
クマガイソウ(ラン科)

杉林や竹林に多く、長い地下茎で繁殖する多年草です。ランではめずらしく幅広い2枚の葉がほぼ対生状につき、袋状に大きくふくらんでいる花を茎の先に1個つけます。名は袋状の唇弁を、源氏の武将熊谷次郎直実の母衣(ほろ)に見たてたものです。昔戦場では、矢よけのためにふくらませた布製の袋(母衣)を背負いました。



ヤマツツジ(ツツジ科)

北海道から九州まで広く分布して、日本人の多くに親しまれているツツジです。半常緑低木で、春にでて秋に落葉する春葉と夏から秋にでる夏葉があり、夏葉の多くは越冬するそうです。花の上面に濃紅色の斑点があります。花の色には変化があり、紅紫色や白色のヤマツツジもあるそうです。



レンゲツツジ(ツツジ科)

つぼみの様子をレンゲの花に見たてた名です。草原や林縁に生える落葉低木で、葉の展開と同時に朱橙色の花が開花します。1個の花芽から2～8個の花が咲き、日本のツツジの中ではもっとも大きいそうです。花びらの上側に斑点があるのと、葉の表にしわがあるのが特徴の1つです。有毒植物で家畜が食べないので牧場などに多くあります。



ウラシマソウ(サトイモ科)

一見、マムシグサに似ていますが、肉穂花序の先端の付属体が釣り糸状に長く伸長して釣り糸に見えるのが特徴で、浦島太郎の釣り道具に例えての和名です。紫の花びらに見えるのは、肉穂花序を包む仏炎苞です。サトイモ科なので肥大する地下茎を作り、ある程度大きくなると雄株から雌株に性を変えます。



ミヤマガマスミ(レンブクソウ科)

山地に生える高さ1～3mの落葉低木です。葉は葉脈がくぼんで目立ち、表面は無毛ですべすべし光沢もあります。枝の先に白い小花の散房花序（枝の上部からたくさんの花柄が出て、たくさんの花が球面上に集まって咲く）が付き、同じ仲間のガマスミより先に開花します。



サクラソウ(サクラソウ科)

山地の湿り気の多い所に生える多年草で、花が美しいのでよく栽培され園芸品種も多いです。葉は楕円形でしわが多く縁は浅く切れ込んでいます。名前はサクラに似ているからついたようですが、サクラソウは合弁花で5枚に見えるハート形の紅紫色の花弁はくっついていて筒状になっています。



サワオグルマ (キク科)

本州～九州の湿原や休耕田などの湿地に生える多年草。茎が太く中空で、50～80cm。葉はへら状披針形ではじめはクモ毛が密生します。茎葉は卵状披針形で基部は茎を抱きます。茎の先端に直径3～4cmの黄色い頭花を散房状に多数つけます。



ナナカマド (バラ科)

山地の林縁などに生える落葉小高木で、公園や庭にも植えられています。葉は奇数羽状複葉で、秋には紅葉します。枝先に複散房花序を出し、白い5弁花を多数つけます。名前は7度かまどに入れても燃え残るということからつけられたようです。山形市のシンボルの木です。



ミツガシワ (ミツガシワ科)

氷河期には広く分布していたと推定される寒冷期の遺存種です。山地の沼や沢などに生える多年生の水草です。泥中に太い根茎があります。ミツバの紋章に似ているという、名のもとになった3枚の葉と並んで花茎を立て、白い小さな花を咲かせます。じょうご形の花をよく見ると、花びらに白い縮れた毛が密に生えていて、目を引きます。



オダマキ (キンポウゲ科)

日本原産のミヤマオダマキと、ヨーロッパなどが原産の西洋オダマキの2グループに大別されます。オダマキの草丈は20～30cmで、それに対して西洋オダマキは、草丈70cmに達します。花の萼片の距は長く先は内側に巻いています。オダマキ（苧環）とは昔、つむいだ麻糸を巻いた道具で、それに花の形が似ているので名づけられたようです。



ラショウモンカズラ (シソ科)

雑木林や林の縁などに生育する多年草です。太い筒状の紫色の唇形花を、横向きに数段つけます。花冠の長さは4～5cmで、シソ科の植物としては大きな花です。下唇には模様が見られ、白い毛が密生します。名は花の形が羅生門で切り落とされた「青鬼の腕」に例えてつけられたと言われています。



タニウツギ(スイカズラ科)

主に日本海側の山地に生える高さ2～3mの落葉低木です。小枝の先端に、淡紅色の先が5裂した漏斗形の花が2，3個ずつまとまってつききれいです。田植えの時期に花が咲くので「田植花」とも呼ばれます。多くの地方名があることから、人々と深いかわりがあったことがわかります。



マイヅルソウ(キジカクシ科)

山地から亜高山帯の針葉樹林内に生える多年草で、葉の形は心形で先が尖り基部が深く葉脈が目立ちます。茎はまっすぐでなく、くの字に曲がりその先に白い小花の総状花序をつけます。大きく広げた2枚の葉の様子を羽に、総状花序を頭に見立てて、鶴が舞う姿に例え名がつけられたようです。



サラサドウダン(ツツジ科)

深山の林内や林縁、岩場に自生し、ドウダンツツジの仲間では最も北方まで分布するそうです。花は淡紅白色で紅色の縦の筋があります。この更紗のような模様が名の由来になっているようです。白いドウダンツツジと花の形は似ていますが、壺形にならないで先が広がり鐘形のところが違うようです。



フデリンドウ(リンドウ科)

山野の日当たりのよいところに生える小さな2年草です。秋に咲くリンドウとくらべると小形です。茎の半ばから上に対生の葉をつけ、その先に青紫色の花を数個つけます。花は上向きに咲き、日光が当たると開き雨天や夕刻では閉じます。名は、茎の先につく花のつぼみ（正確には花が閉じたとき）の形が筆の穂先を思わせるところからつけられたようです。



オドリコソウ(シソ科)

ヨーロッパ原産のヒメオドリコソウにおされて存在感のなくなったような本種ですが、しっかり咲いています。東アジアの温帯に広く分布し山野や道ばたの半日陰に生える多年草です。葉のわきに淡紅紫色または白色の花を数個輪生します。名は花の形が笠をかぶった踊り子の姿に似ていることによるようです。よく見るほどに踊り子を連想させます。



ホタルカスラ(ムラサキ科)

乾いた草地や林縁に生える多年草です。小さい花ですが、ムラサキ科の中では一番大きいそうです。蛍光を発しているような青い色は遠くからでも目立ちます。そこから、ホタルの名がつけました。花が咲いている時はカズラの意味はわかりませんが、花後に根もとからつるが出てきて新しい株をつくります。それで、この名があります。



キタマムシグサ(サトイモ科)

高原～山地の林床などに普通に生える高さ 30～80cm の多年草。従来、コウライテンナンショウと呼ばれていた植物ですが、仏炎苞の舷部がよりヘルメット状に膨らみ、白条が広がって半透明になるという形質で区別できます。本園では、いろいろな場所の林の中に生えているので、注意して見ると誰でも、“蛇に似た姿”を見つけることができます。



トチノキ(ムクロジ科)

落葉高木で主に冷温帯域の山地に生育し、高さ 30m ほどの巨木に成長することもあります。葉は大きく、5～7つに掌状に分かれており、天狗の団扇と呼ばれたいなる形をしています。白い大型の房状花序を付けます。花はとても甘い香りがし、果実のトチの実は、餅に使われたり、トチ笛などの工作の材料となります。



ヒメシャガ(アヤメ科)

山地の林の下などに生える多年草です。草丈が20～30cm、葉先が尖る細長い葉を株立ちさせ、その株は根茎が横に這っていくので増えていきます。花がシャガに比べてやや小型なので名がついたようです。径4cm程の淡紫色の花を花茎に2～3個咲かせます。外花被片の中央は白色で、紫色の脈と黄色の斑紋があり、とさか状の突起があります。



ホオノキ(モクレン科)

大きくなる木で、高さは30m以上になるものもあります。葉は長さ20～40cmにもなり、倒卵状楕円形で全緑です、そして裏面は白い粉を帯びています。互生するが、枝先に束生し、輪生状に見えます。花も大型で白い花が真上に向かって開花し芳香があります。ホオノキは花びらがらせん状に配列し、萼片と花卉の区別も明瞭ではありません。